

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント

は種時のポイント

- ① 「宇部粒状培土」を使用しましょう。
- ② 播種前にたっぷりかん水しましょう。
- ③ 適正な、は種量を守りましょう。 ※品種ごとに、は種量が違います。水稻栽培歴を確認してください。
- ④ 機械を使い、できるだけ均一に、は種しましょう。
- ⑤ 覆土は種子が完全に隠れるまで行い、その後のかん水は行わない様にしましょう。

生育ステージごとの最適管理を行いましょ！

1. 出芽時の温度管理に注意

出芽温度が32℃を超えると高温障害や徒長苗の原因となります。

- ① 高温になりそうな好天日は、早めの換気をし、ビニールハウスやトンネル内の温度の上昇を防ぎましょう
- ※シルパーポリトウは日中の高温や夜間の低温を防ぐことができます。

- ② 温度計は育苗箱のふちには置かず、床土の温度を測るように設置しましょう。

2. 適切な水管理

- ① 緑化期（15葉期）までは1日1回午前9時以降にかん水を行いましょ。

- ② 硬化期（15葉期以降）は、午前1回・午後1回（15時前）行いましょ。

※**夕方のかん水は、温度低下や夜間の呼吸を妨げるので避けましょ。**

※曇りの日や雨の日は極力かん水を控えましょ。

むれ苗

発芽後、異常な低温（4℃以下）の後の晴天・高温により蒸散が盛んになると発生します。葉が急に巻き、蒸れてよれたようになり、やがて枯れてしまうので、日中は25℃以上、夜間は5℃以下にならないよう温度管理に注意しましょ。

育苗中の病気対策

種子及び資材の消毒を徹底し、は種時または発芽後の症状が出る前に、タチガレエース液剤を**予防散布**してください。



農業経営支援課 渡辺彰人